

「家がいいね」 第163号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2017. 12. 11

やはり「家がいいね」と思うわけ

12月にホームホスピスの全国研修に参加しました。儲かるはずのない事業に、なぜ皆が気持ちよく集まるのか、集まって話すと自然と分ります。家は建物ではなく住まいです。自分の居場所であり、落ち着いた食事と会話が可能な場ですから。「私は病院では思ったことが言えないから」と家に帰った人の言葉から、広報紙の題を決めました。彼は私に、家の役割を指し示してくれたわけですから、再確認です。病院や施設は何かをする所です。機能的で能動的、治療する・介護すると言ったようにDoingの世界です。広さ・幅・段差・手すりなど見えるモノが優先されます。一方、住まいは居る所で、存在し受動的、憩う・休むというように、Beingの世界です。その心地よさには、音・光・風・雰囲気など数値化できないものが並びます。ホームホスピスが、使われていた民家を利用するのは、形や数に替えられぬもの(家の持つ力や文化)を受け継ぐからではないでしょうか。それは一般の家でも、住む人が手を入れて生活し、愛でるものの良さを再発見するのと繋がりますね。

全国に様々な形で広がるホームホスピス

ホームホスピスの理念

1. 本人の意思を尊重し、本人にとっての最善を中心に考えます
2. 「民家」に少人数でとも暮らし、通常の「家」という環境で暮らしを継続することを大切にします
3. 困難な条件下であっても最期まで生きることを支える
4. 一人一人の持つ力に働きかけ医療介護など多職種の専門家やボランティアが一体となって生活を支えます
5. 死を単位に1個の生命の終わりを受け止めず今を生きる人につなぎそこに至るまでの過程を共に歩む新たな「看取りの文化」を地域に広げます

もうひとつの「イイね!」のことですが

スマホを使う個人連絡網(SNS)の世界では、自分が認められたとの評価を、反応の数で判断するようです。自分を守るため一人で居たいけど、孤立に耐えられないため独りで居れない人が利用する世界と思えます。直ぐに答えが欲しい、呼びかけに応えて欲しい渴望もあります。多情報世界の激流では、言葉だけの遣り取りは危険です。外来での相談でも、SNS関連のトラブルを聞きます。1対1の生身の会話のリズムで、ゆっくり進めないと行き違いが深まるばかりと感じます。

対立関係より3角形の関係が安定の力



互いが直接に向かい合う人間関係では、緊張をはらみやすいと思えます。実際に、愛憎のように相反する感情に苦しみます。

ケアに関わる人は経験的に感じているのですが、間を取り持つ人(第三者)の存在が必要ですね。

椅子でも3脚、4脚、5脚と安定度が増すように、話を聴くことのできる人が多いほうが望ましいでしょう。しかし、他者の介在も直ぐには望めない時もあります。そんな時は「**相対する相手**が、**どんな状況と考え自分に向かい合っているのか**」と考えるだけで3角形になります。いかがですか。

年末年始のお知らせとお願いです

年末年始の休診期間は、**12月28日(木)**、**1月4日(木)**までです。この間も在宅患者さんには対応いたしますので、「安心下さい」。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可